

# 白根穂の いまどき 恋愛 講座



このコラムは「恋愛講座」だけれど、今日はちょっと視点を変えて、「結婚について書いてみようと思う。」

さて皆さんは、幸福な結婚生活の秘訣って何だと思っ？ 私は、その答えはとても簡単なことだと思っっている。ただ、自分と相性の合う人を選ぶこと！

ところが、この「相性が合う」という言葉はクセモノで、とても勘違いが生まれやすい。  
恋人の関係において、「相性が合う」というのは、「遊んでいて楽しい」という意味の、「相性が合う」だと思っ。映画や音楽の趣味が一緒で、冬はいつも二人でスキー、夏は一緒にマリンスポーツ・・・二人はきつと「私たちの相性ってピッタリね！」と幸福いっばいのはずだ。けれども、これが夫婦となった途端、「相性」の意味は突然変わっってしまう。

なぜなら、結婚とは、まさしく生活そのものだから。そして「生活の相性」と、「遊んでいて楽しい相性」とは、全く別ものだからだ。

現在、私の二人のとても親しい女友達は、離婚を真剣に考えている。彼女たちは結婚前、頬を染めて語っていた。「私、こんなに自分に合うヒト、初めてなの」と。ところが、2年から3年の結婚生活を経て、彼女たちが今、感じて居ることは、「ダンナとの相性はサイアク」なのだそう。親友の名譽のために書いておくけれど、彼女たちは一人とも聡明で、それなりに恋をし

て男を見てきた女たちだ。つまり、初めての大恋愛で前後不覚に陥り、冷静な判断力を持っていなかっただ、なんてコトでは決っしてないということ。それなのに、二人とも、「相手の選び方が間違っっていた」と感じている。それはなぜか？ 要するに「相性が合う」という言葉を勘違ひしてしまっただけだ。「恋人としての相性」が、そのまま「夫婦としての相性」に当てはまると思っってしまったからだ。

私は結婚とは生活である、と書いた。つまり、こういうことだ。彼女は彼がお風呂上がり、濡れたバスタオルをベッドの上に置くことが嫌なのだ。彼女は彼がベッドの中でポテトチップスを食べながらマンガを読むことが、彼が歯磨き粉のキャップをいつも閉めな

いことが嫌なのだ。つまり、そういうことに代表される、彼の生活における「だらしなさ」が嫌なのだ。もちろん、そういうただらしなさも、あまり気にならない女性もいるだろう。けれども、彼女は「それが我慢できない。そして彼の方も、自分が一番ラクだと感じている習慣をいちいち指摘されるのがたまらないと感じてしまう。問題は個人にあるのではなく、むしろ「組み合わせ」にあるということ。

独身の人たちは「そんなこと？ しょーもな！。どっちかがどっちかに合わせたらいいじゃん」と笑っしてしまうかもしれない。でも、習慣や志向なんてそう簡単に変えられるものではない。

「じゃあ、我慢してあげればいいじゃん。愛があるんだもの。そのくらいで済むわよ」と思っくもしれない。でも、日々の「嫌」が数年分積み重なった結果、愛情までも擦り減っってしまうことがあるのだ。

私はみなさんに、できれば結婚前に少しの間でいいから、「一緒に生活してみる」ことをおすすすめしたい。旅行ではなく、とにかく「生活」をしてみる。それも、恋に落ちて二人が情熱的になっっている状態の時ではなく、少し穏やかな愛情に変わっってきたかな？ というくらいの時に。きつと、それまでは判らなかつた相手のことが、見えてくるはずだ。そのあと結婚を決意したって遅くはない。恋人が別れるのと、夫婦が離婚するのとは、もう全然違っ。結婚は親族や社会を巻き込んでしまうから、離婚となると大変な努力がいるもの。その結果、あきらめてしまっ。「私が我慢すればいいんだわ」となっってしまう。離婚したい、と切実に思っながらもするすると結婚生活を続けていく羽目に陥る。

私は結婚式を挙げる前に、3年以上ダンナと一緒に生活していた。私は学生時代から恋愛をずっと一緒に生活する、というパターンを繰り返していたので、今のダンナが私にとっ「特別に相性が良い」相手だと、判断できるよになっっていた。

離婚を考えている友達は、今、口を揃えて言っっている。「今度、結婚する時は、絶対に最低でも2年、一緒に生活してから決めるわ」と。みんながこういう気持ちになれたら、せめて成田離婚や関空離婚なんてことは少なくともなくなるだろうと私は思っっている。

【プロフィール】  
1965年生まれ。同志社女子大学卒、(株)電通ブックス勤務を経て、現在コピーライター。広告のほかFMラジオ番組のシナリオや出演もこなす。著書に「ありふれた無邪氣が罪になる」(PHP研究所)、「キスまで待てない」(大和書房)など。

MARUOKA IZUHO

PARADISE  
YAMAMOTO

【プロフィール】  
元東京パラママンボーイズのリーダー。富士重工デザインセンターでカーデザイナーとして活躍。現在マンガ画家のソリマチアキラらと東京ラテンムードテラックスで東京の音楽シーンの人気者。自身の選曲・監修による東京ダンスホールテラックスシリーズ(東芝EMI)もダンスファン、渋谷系の若者に人気。パラダイス山元と東京ラテンムードテラックスのデビューシングル「洋酒天国」5月28日発売。お店へ届け。

